別紙２　令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立辻南小学校 ）　　学校番号　１０１　　【参考例】

目指す学校像	進んで学び、心豊かで心身ともにたくましい児童を育成する、花と歌と愛にあふれる学校

重点目標	
	１　教育ＤＸによる「学びの自律化と個別最適化そして探求化」による授業改善 ２　「認め、褒め、励ます教育」の実践による、児童の自己肯定感の育成 ３　スクール・コミュニティによる連携・協働の一層の推進と地域とともにある学校の実現 ４　一人ひとりが力を発揮し、自ら学び合う教師集団をつくる教職員研修の充実

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
学力向上に関する取組 1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、学習は、全国、市平均と比べ概ね平均に近い結果である。意欲は、国語が高く、算数と理科はやや高い。 ○市学習状況調査において、学習はどの教科も概ね平均に近い。意欲に関する項目は、市平均と比べ国語、社会、Ｇ・Ｓでやや高い。 ○日頃の学習の様子から、自らの興味のあることについて調べ、発表することに意欲的に取り組む児童が多い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査の結果分析から、どの教科とも、結果の二極化の傾向がある。特に国語「読むこと」、主に読解力について課題が見られる。 ○ＩＣＴの活用状況には学年差があるので、発達段階に応じて活用を進めていく必要がある。	・学びの自律化と個別最適化・探究化に向けた情報端末の活用、授業改善	①「学びのポイント」（じしゃく）を活用した授業研究を各学年が年間３回以上取り組む。 ②共同学習ツールを活用する能力を高めることで、児童が自ら考え、伝え合い、学びを深める「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 ③全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、読解力に関する状況を分析するとともに、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで、より効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の読解力向上を図る。	①全教員が「深い学びのポイント」を明確にした指導案を作成することができたか。 ②児童が共同学習ツールを可能な限り活用し、学習の成果を互いに共有し、学び合うことができる活動の場を意図的に設定したか。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。また、読解力に関する問題について、正答率を前年度より上回ることができたか。				
		・学ぶ楽しさを実感できる「グリーンタイム」（総合的な学習の時間・STEAMS TIME）の充実	①５・６年のグリーンタイムでは、地域防災、SDGs をテーマとした、探究的な学びを行う単元を実施する。 ②教員と児童が共に学び、試行錯誤しながら、現代的な課題の解決を目指すSTEAMS TIME を展開する。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、「児童と共に探究的な学びを実践することができた」と回答する教員の割合が９５％以上となったか。 ②STEAMS TIME 実施後の児童アンケートにおいて、「STEAMS TIME は楽しい」の肯定的な回答が９０％以上となったか。				
安心・安全に関する取組 2	〈現状〉 ○児童の心と生活のアンケート「自己信頼」の項目において、肯定的回答が５割を下回っている。 ○昨年度、校舎内では教室でのけがが多く、高学年より低中学年でのけがが多かった。医療機関を受診したけがは３３件であった。 〈課題〉 ○感染症対策の緩和による生活の変化や、人間関係の希薄化等によるストレスや不透明感が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①全教育活動を通じて、児童のよさに着目した「認め・褒め・励ます」教育について学校・家庭・地域に周知し、実施する。 ②情報端末を活用して児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ③教育支援・相談に係る校内委員会でＩＣＴを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①「認め・褒め・励ます」教育を諸会議、校長室だより、学校だより、懇談会等で周知し、学校運営協議会での熟議を基に具体的方策を示したか。 ②学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。 ③児童のアンケート結果に基づく面談を結果確認から２週間以内に行い、生徒指導・教育相談、関係の分掌組織で情報を共有し、適切に対応できたか。				
		・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた教育活動の充実	①校内けがマップを児童委員会とともに作成し、校内におけるケガの発生場所、件数、原因等を分析し、全校児童と結果を共有できるようにする。 ②安全な生活への意識を高めるため、学校保健委員会や生活朝会を教員と児童委員会の協働で開催する。その中で安全な生活の実現に向けた具体的な取組を発信する。	①学校評価に係る児童アンケート学校か安全に関わる項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。 ②学校保健委員会や生活朝会を実施し、高学年児童から全校に向けて安全・健康に関する取組について発信することを通し、児童の意識が高まり、けがの件数が減少したか。				
地域とともにある学校づくりに関する取組 3	〈現状〉 ○昨年度までの学校運営協議会での熟議によって、目指す児童の姿「児童の自己肯定感を高め、様々なことにチャレンジする意欲をはぐくむこと」に地域全体で取り組んでいくことを「アクションプラン」にまとめ、共有した。 ○市学習状況調査では、地域との関わりに関して肯定的な回答が市平均を上回っている。 〈課題〉 ○児童の心と生活のアンケートの「信頼自己」の結果から、児童が参加する地域の活動でも、一層の自己肯定感の向上を図る必要がある。 ○昨年度実施した「あいさつ運動」について、保護者や地域の関わりが十分とは言えなかった。 ○「アクションプラン」について、継続的な行動に向け、前年度の取組を確認し修正を加えていく必要がある。	・地域との連携・協働による、自己肯定感を醸成する教育活動の展開	①地域人材や保護者などの多様な人物が、児童に対して積極的に関わる教育活動を各学年の教育課程に位置付ける。 ②５・６年のグリーンタイムで地域課題を題材とした探究的が学習を、外部人材を活用して実施する。	①学校自己評価に係る児童アンケートで自己肯定感に関する項目に肯定的な回答が９０％以上となったか。 ②学校自己評価に係る教員アンケートで家庭・地域との連携に関する項目で肯定的な回答をする割合が９０％以上となったか。				
		・ＳＳＮの「支援」から「連携・協働」への転換による役割の明確化と、地域学校協働活動の推進	①学校・家庭・地域で協働して、児童が地域と関わる行事を実施する。（おもしろサマースクール、豆まき、エコフェスタ、あいさつ運動等） ②学校運営協議会において、学校・家庭地域それぞれの取組の成果と課題及び改善策について熟議し、組織的・継続的な連携・協働体制をまとめた「アクションプラン」を作成する。	①学校・家庭・地域で協働した行事を実施できたか。 ②学校運営協議会で熟議された結果に基づいた地域学校協働活動の共有及び活動内容の改善について議論するために、「アクションプラン」を作成することができたか。				
教職員の資質向上に関する取組 4	〈現状〉 ○学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたＩＣＴの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができている。 〈課題〉 ○ＩＣＴの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ○若手とベテランの二極化の年齢構成のため、年齢層を超えて学び合う仕組みづくりが求められる。	・一人ひとりが力を発揮し、自ら学び合う教師集団をつくる研修の実施	①教職員集団で協力して資質を高めるため、学校課題研修はメンター・メンティ手法を用いた体制とする。 ②一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善を目指し、ＩＣＴを活用した年間３回公開授業を実施する。 ③1/24 の研究発表会や Teams を活用して、優れた取組に関する資料や短時間の動画データを蓄積、共有し、事例を本市へ発信・共有する。	①学校課題研修で、メンター・メンティ手法を用いた体制で研修が実施できたか。 ②全ての教員が、年間を通して取り組む授業改善を目指し、ＩＣＴを活用した年間３回公開授業を実施することができたか。 ③1/24 研究発表会で、本校の教育実践について資料やデータをまとめ、発信することができたか。Teams のデータを活用し、教員が授業改善に役立てられる状態になったか。				

令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立辻南小学校 ）　　学校番号　１０１

【様式】

目指す学校像	進んで学び、心豊かで心身ともにたくましい児童を育成する、花と歌と愛にあふれる学校

重点目標	
	１　情報端末を活用した「個別最適化した学び」の実現と集団で学ぶよさを生かした授業改革 ２　「認め、褒め、励ます教育」の実践による、児童の自己肯定感の育成 ３　保護者・地域との信頼関係のもと、コミュニティ・スクールとしての方策の共有と行動 ４　教職員一人ひとりが自らの力を発揮し、伸ばしあう教職員集団をつくる教職員研修

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和５年２月１３日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査では、近年伸びが見られ、国語、算数共に全国や市の平均に届きつつある。 ○日頃の学習の様子から、自らの興味があることについて調べ、発表することに意欲的に取り組む児童が多い。 ＜課題＞ ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、「知識・技能」の定着が不十分な児童がおり、結果の二極化傾向がみられる。 ○「算数の授業が好きだ」に対する肯定的な回答が下降傾向にある。	・主体的に学ぶ力を付ける、情報端末の活用と授業改善	①研究指定校として教育ＤＸによる個別最適な学びと主体的・対話的で深い学びを実践するため、「仮説を立て、授業し、検証する」サイクルでの、年３回の公開授業を、情報端末の活用を必須として全教員が実施する。 ②スタディサプリやドリルパークなどの学習への取組状況を基に学習相談を実施し、児童が目標をもって学習できるようにする。	①年３回の公開授業を全教員が実施することができたか。 ②国語、算数について、全児童に対して学期に２回以上学習への取組状況を基に学習相談を行うことができたか。	①全教員が年３回以上の公開授業を実施することができた。各授業において、深い学びに到達させるための手立てを明確にした指導案をもとに、指導主事の指導ものべ１８回受けることができた。 ②高学年においては「マイプラン」により学習の取組状況を確認し、毎週助言を行うことができた。低・中学年においては、学期に１度の面談にとどまった。	B	・次年度の研究発表会に向けて、これまでの取組や成果を整理し、効果的な取り組みの一般化に取り組む。 ・全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果や課題を踏まえた授業改善のため、引き続き、全教員の３回の授業公開に取り組む。 ・自ら調整しながら学ぶ力を高めるため、学期に２回以上の学習相談を全児童に行う。	・児童が「板書で授業してほしい」と記述していることから、タブレット一辺倒ではなく、これまで築いてきた授業のそれぞれよいところは何かきちんと検証し、バランスをとっていってほしい。 ・「マイプラン」の理念は素晴らしいが、自ら学びを調整できない子供への指導をしっかり行ってほしい。 ・ＳＤＧｓ、地域防災など、地域に出て学ぶ児童は、自ら課題意識をもち、大変意欲的だった。こういう教育を進めてほしい。
		・学ぶ意義や楽しさを実感する「総合的な学習の時間」の実施	①学校から地域に出て学ぶ機会や外部人材と共に学ぶ活動を計画的に実施する。特に、5～6 年の総合的な学習の時間を、地域防災、ＳＤＧｓをテーマとした取組に全面改訂する。 ②試行錯誤しながら協働的に学ぶ「STEAMS TIME」を展開する。	①5～6 年の総合的な学習の時間に、外部人材とともに学ぶ活動を入れた取組を計画通り実施できたか。 ②「STEAMS TIME」実施後の児童アンケート「『STEAMS TIME』は楽しい」の肯定的な回答を９割とする。	①５～６年の総合的な学習の時間に、地域の方や外部施設に協力いただき、SDGｓ、地域防災について、児童の主体的な活動をダイナミックに実施することができた。 ②「STEAMS TIME」実施後の児童アンケート「『STEAMS TIME』は楽しい」の肯定的な回答は９６％だった。	A	・今年度、全面改訂したカリキュラムの留意点を記録に残し、次年度に引き継ぐ。 ・楽しい『STEAMS TIME』を維持しつつ、児童のどのような資質・能力を伸ばすのか明確にしたカリキュラムと改善したい。	
2	＜現状＞ ○学校評価において「自分にはよいところがあると思う」の児童の肯定的な回答が８８％である。また、「学校は子どものよさを見付け、伸ばそうとしている」の保護者の肯定的な回答は８１％である。 ○開校 16 年目を迎え、施設の不具合が様々出始めている。 ＜課題＞ ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援していく体制づくりが課題である。 ○大きな瑕疵については修繕に時間がかかる。 児童の安全にかかる修繕については安全点検を確実に行う必要がある。	・児童一人ひとりのニーズに応じた支援に向けた校内体制の充実	①「認め・褒め・励ます」声掛けについて全教職員で共有し、実施する。 ②家庭と協働による道徳教育を実現するため道徳の授業公開を行う。 ③教育支援・相談に係る校内委員会でＩＣＴを活用し、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援を行う。	①学校評価に係る児童及び保護者アンケートで、関連する項目の肯定的な回答の割合が９割以上となったか。 ②全学級で道徳の授業公開ができたか。 ③学校評価に係る児童及び保護者アンケートで、関連する項目の肯定的な回答の割合が９割以上となったか。	①学校評価において、児童「先生はよいところをほめてくれる」の肯定的な回答が96%、保護者「学校は子どもの良さを見つけ伸ばそうとしている」94%の肯定的な回答を得た。 ②全学級で道徳の授業公開もしくは、保護者と連携した道徳授業を実施した。 ③保護者アンケート「相談や要望に対して誠実に対応している」96%の肯定的な回答を得た。	A	・よい評価をいただいた一方で、言葉遣いが悪いという保護者からの声がある。教職員に「コーチング」研修を行い、「認め・励ます」指導の在り方について徹底する。 ・引き続き、児童の様子をよく観察し、保護者への迅速な連絡と相談体制を確立する。	・引き続き、受け止め、寄り添った対応を児童にも、保護者にも続けてほしい。 ・子どもの人格を尊重した取り組みである。間違えたことをしたときに叱ることももちろん必要だが、言い分をよく聞いてあげてほしい。 ・何でもかんでもほめていては、打たれ弱い子になるのではないか。努力したことをほめることが大切。 ・悩みを相談できる人がいないと回答した児童がわずかだが存在するので、相談できる人が少しでも増えるよう努力してほしい。
		・施設・設備の管理の徹底による安全な生活の実現	①校内けがマップを作製し、発生場所、件数、原因を児童と共有する。 ②月１回の安全点検や校内巡視で判明した瑕疵は、事務担当や業務担当と連携を取り、毎月 1 週間以内に対応する。	①学校評価に係る児童のアンケートで、「安全に気をつけて生活している」の肯定的な回答の割合が９割以上となったか。 ②安全点検で判明した瑕疵について、1 週間以内に対応に着手できたか。	①「安全に気を付けて生活している」の児童の肯定的な回答の割合は 89%となった。 ②安全点検で判明した瑕疵は、１週間以内に対応に着手できた。	B	・児童は「安全に気を付けて生活している」とアンケートに回答しているが、廊下や階段、校庭の使い方などで継続して指導が必要な状況である。安全部を中心に、児童自身が安全に気を付けて生活する力を付けるよう指導を進める。	
3	＜現状＞ ○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、「児童の自己肯定感を高め、様々なことにチャレンジする意欲をはぐくむこと」に地域全体で取り組んでいくことを共有した。 ＜課題＞ ○昨年度は共有の取組として「あいさつ運動」から取り組んだが、家庭・地域に浸透するまで至っていない。 さらに、目指す児童像の実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けて取り組みを開始する必要がある。	・目指す児童像の姿を地域で共有するための、教育活動の公開	①学校ホームページに、児童の活動の様子や、学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、月 3 回以上更新する。 ②地域の方をお呼びして共に学ぶ活動を計画的に実施する。	①ホームページを月 3 回以上更新できたか。 ②外部人材をお呼びして共に学ぶ活動を月１回以上実施できたか。	①ホームページは２週に１度更新し、学校だよりに加え、学年だよりも、HP 上で見られるようにした。 ②５～６年の総合的な学習の時間では、外部人材と協力して学ぶ活動をのべ２０回以上実施した。全国学力学習状況調査では「地域のためにできることを考える」の肯定的回答が 64%（全国平均 51.3%）となった。	A	・戦争の話を教えてくださる地域の方、児童クラブ、保育園、コープ未来、聾学校、盲学校、南区役所、NPO 団体等、今年度得られた様々なつながりを継続して、子どもの主体的な学びを保障したい。	・ＳＤＧｓをきっかけに地域の行事に親子で参加してくれた。地域も「知っている人」になるよう顔が見える関係を築きたい。 ・働き方改革やコロナ感染症の影響で、地域行事も、ＰＴＡの取組も簡略化が進み「双方向」のやり取りが減少していることが心配である。感染症対策もしながら、出来ることを増やしていきたい。 ・あいさつについて、子どもと保護者・教員の回答にギャップがある。このギャップはなぜ生まれるのか検証したい。
		・目指す児童像の実現のための、学校・家庭・地域の具体的方策の決定と行動	①学校・家庭・地域で協働した行事を年 3 回以上実施する（おもしろサマースクール、豆まき、エコフェスタ、あいさつ運動等） ②学校・家庭・地域・児童による目指す子ども像実現に向けた「アクションプラン」を作成する	①学校・家庭・地域で協働した行事を年 3 回以上実施できたか。 ②アクションプランを作成できたか。	①学校・家庭・地域で協働した行事を、計画通り実施できた。 ②学校・家庭・地域・児童それぞれが、目指す子ども像実現に向けた取り組みをまとめた「アクションプラン」を作成できた。	B	・あいさつ運動については、地域や保護者の参加がまだ十分とは言えないので、引き続き呼びかけを行う。 ・アクションプランについて、今年度の取組の反省により修正を加えながら、確実な実施を進める。	
4	＜現状＞ ○ＩＣＴ機器の効果的な活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねている。 ○全教員の年 3 回の公開授業を中心に据えた研修を進めている。 ＜課題＞ ○ＩＣＴの活用について、教員間で取組の差が見られる。様々な取組にチャレンジする風土づくりが求められる。 ○若手とベテランの二極化の年齢構成のため、年齢層を超えて学び合う仕組みづくりが求められる。	・一人ひとりがもてる力を発揮し、伸ばしあう教職員集団をつくる研修の実施	①教職員集団で協力して資質を高めるため、学校課題研修をメンター・メンティ手法を用いた体制とする。 ②年間を通して、全ての教員がＩＣＴを用いた 3 回以上の公開授業を実施する。	①学校課題研修をメンター・メンティ手法を用いた体制を確立できたか。 ②年間を通して全ての教員がＩＣＴを用いた 3 回以上の公開授業を実施できたか。	①学校課題研修は、学びたい教科同士で集まってグループを組み研修を進めた。８教科、３～４人ずつのグループができ、少人数で、指導主事の指導を受けながら、学びたい教科についての研修を主体的に進めることができた。 ②年間を通して、すべての教員が、３回以上の公開授業を実施した。ICT については、効果的な活用も事例の蓄積がなされた。	B	・研究を深めたい教科を切り口に、授業公開を中心に据えて研究をするスタイルを維持し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」についての研究発表会を実施する。 ・学習記録を活用した個別最適な学びについて、家庭学習を含めて研究を進める。	・授業公開を中心とし、ベテランと若手が学び合える取り組みがとてもよい。 ・先生たちの学ぶ姿を地域も保護者も知らなすぎる。研修の様子を公開してはどうか。 ・教員が児童と触れ合う時間と心の余裕を取り戻してほしい。